

やちぼうずとやまなこ
小川 浩子
— 見えてくる コラム —



これからの10年に向けて大きな一歩

2000年にNPO法人として発足した霧多布湿原トラストの活動も10年たちました。当初、霧多布湿原を囲む1,000ヘクタールの民有地を買い取り、保全するという活動を始める時、そのために必要な途方もない時間と金額に、どうなる事かと思いましたが、やはり、霧多布湿原の持つ力はすごいものですね、この10年の中で着実にその活動は実を結んできました。それは理念ではなく、「この湿原は、やっぱり未来の子どもたちに残さなければ」と思わせるだけの力、心の底に響きかけられる魅力が霧多布湿原にあるからだと思います。

霧多布湿原トラストの前身は「霧多布湿原ファンクラブ」といいます。浜中の青年を中心にして1985年に生まれ(現在の理事長や副理事長もまだ20代の青年でした)霧多布湿原の民有地を借り上げて残すという、国内でも真新しいと言われた形の活動を始めましたが、それがいまのナショナルトラストにより買い上げて残すという形へと進展してきました。

今回、琵琶瀬展望台の眼下に広がる湿原のナショナルトラストに成功したことは、これからの10年に向けての大きな一歩となりました。会員3,000人のみなさまの力に感謝するばかりです。(事務局長:伊東俊和)



霧多布湿原トラスト 会員募集中

サポーター会員(個人) 一口1,000円
法人会員 一口10,000円

2010年2月の会員数 2,748人

ホームページによる会報掲載

皆様からの会費や寄付をできるだけ湿原の保全事業に役立てるために、会報をホームページ上に掲載し、経費や資源の節約を図りたいと考えています。


会報の郵送不要の方はへご一報ください。Eメールにより会報の掲載をお知らせします。trus@kiritappu.or.jp

表紙・挿絵 作家紹介

小林 絵里子
(野生生物画家・イラストレーター)



神奈川県座間市在住。
展覧会活動や出版物イラストなどで活動中。
絵本「ちびっこびいた」(絵と文・こぐま社)、
児童書「はらっぱのおはなし」(作・椋鳩十、
挿絵担当/PHF研究所)など。
展覧会予定:「鳥・空・植物展」2010/4/22~ 5/4
アートマシンギャラリー(国立市)ほか
Artists for Conservation 会員。
URL <http://www2.odn.ne.jp/eris-arts>

愛は食卓にある。キューピ 

We have a Dream!
この湿原をこどもたちへ



認定特定非営利活動法人 霧多布湿原トラスト

〒088-1531 浜中町仲の浜 122 TEL0153-62-4600 FAX0153-62-4700
<http://www.kiritappu.or.jp/> E-mail trus@kiritappu.or.jp

このマークは、Wetland(湿原)の“W”と、タンチョウの羽ばたきや湿原の川などをイメージしています。

きりたっぶ湿原 ファンクラブ通信

~ この湿原をこどもたちへ ~



絵、文：小林 絵里子

自然が豊かな国ほど多神教に、砂漠の国へ向かうほど一神教になっていくという。

年明けに集まった仲間から聞いたお話。多様性に富んだ自然なら、身ひとつで山に放り出されたとしても、その辺の野草や沢水を口にして何とか生き延びることができ、「様々なものたちと一緒に生きている」という感覚を持つようになる。一方、砂漠ではそういう事態になれば死は時間の問題。

そこで砂漠に住む人々は、自然よりも強い「神」の存在を創り出し、祈った。それしか身を救うすべが残されていないという環境が、一神教を生み出したのだそうだ。

変化に富んだ豊かな自然に恵まれた国に生まれても、天を仰ぎたくなることもあるけれど、たくさんの神様に囲まれているのかな、と思うと、なんだか幸せな気持ちになってくる。